

ハクソー・リッジを観て

監督：メル・ギブソン

出演：アンドリュー・ガーフィールド（遠藤周作原作、マーティン・スコセッシ監督の”サイレンス”で主演）、ヴィンス・ヴォーン、サム・ワーシントンら

概要：太平洋戦争の沖縄戦（1945年5月～6月）で衛生兵(Combat Medic)として従軍したデズモンド・T・ドスの**実体験**を描いた戦争映画。デズモンドはセブンスデー・アドベンチスト教会の敬虔なキリスト教徒であり、沖縄戦で多くの人命を救ったことから、「良心的兵役拒否者(Conscientious objector)」として初めて名誉勲章が与えられた人物である。

ハクソー・リッジとは：ハクソー（Hacksaw：弓鋸）、リッジ（Ridge：尾根）沖縄戦において、浦添城址の南東にある「前田高地」と呼ばれた日本軍陣地。北側が急峻な崖地となっており、日米両軍の激戦地となったことから、米軍がこの崖につけた呼称である

感想；

- * 肉弾戦の描写が強烈、米軍艦砲射撃の凄まじさ、火炎放射器攻撃の惨たらしさ
- * デズモンド・T・ドスが「良心的兵役拒否者」になったきっかけは、第一次大戦に従軍し、PTSD となった父親から激しい DV（Domestic Violence）を受け、その結果、父親を殺しそうになったことから銃をもって人を殺すことを拒否することとなった
- * 真珠湾攻撃以降、愛国心から従軍することを決意 ⇔ 通常、「良心的兵役拒否者」は従軍自体を拒否する
- * 日本軍守備隊はトーチカ（ロシア語／コンクリート製の防御陣地）から迎撃するため、米軍の攻撃陣は夥しい死傷者を出す結果となった ⇔ 硫黄島の戦い（1945年2月～3月と似た攻防戦
- * 日本軍最後の攻撃は、自殺攻撃（一部は捕虜となった）。司令官は切腹、解釈で首が落ちる）
- * 米軍も、日本軍も勇敢に戦う描写が多い

ポイント；

- * 平和主義と愛国心
- * 死を賭して戦うことと愛国心
- * 弾薬が尽きた時に降伏することと、降伏を拒否し自殺攻撃を行うこと
- * 兵站を考えない作戦